

平成23年度
武雄市
当初予算案
概要

平成23年度 武雄市当初予算案

平成23年度
武雄市当初予算案

総額 212億円

(当初予算で過去最大規模)

平成23年度
武雄市当初予算案

総額 2 1 2 億円

(当初予算で過去最大規模)

||

平成23年度
武雄市当初予算案

総額 2 1 2 億円

(当初予算で過去最大規模)

||
「攻めの予算」

平成23年度
武雄市当初予算案

総額 212億円

(当初予算で過去最大規模)

||
「攻めの予算」

就任後4年間で
財政運営に道筋

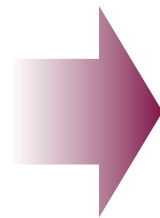
平成23年度
武雄市当初予算案

総額212億円

(当初予算で過去最大規模)

||
「攻めの予算」

就任後4年間で
財政運営に道筋



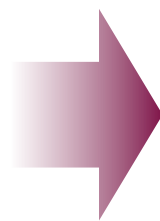
平成23年度
武雄市当初予算案

総額212億円

(当初予算で過去最大規模)

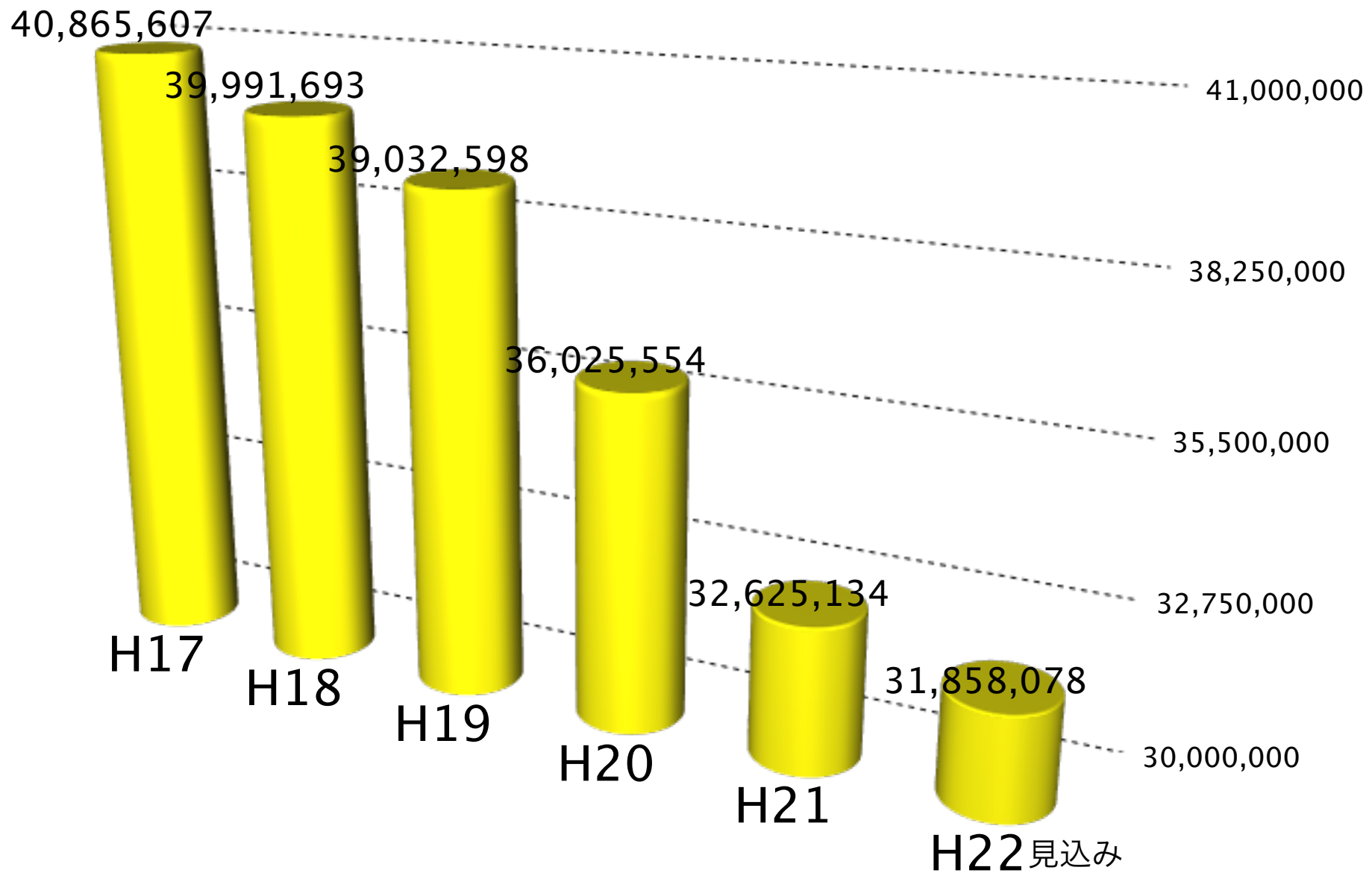
||
「**攻め**の予算」

就任後4年間で
財政運営に道筋

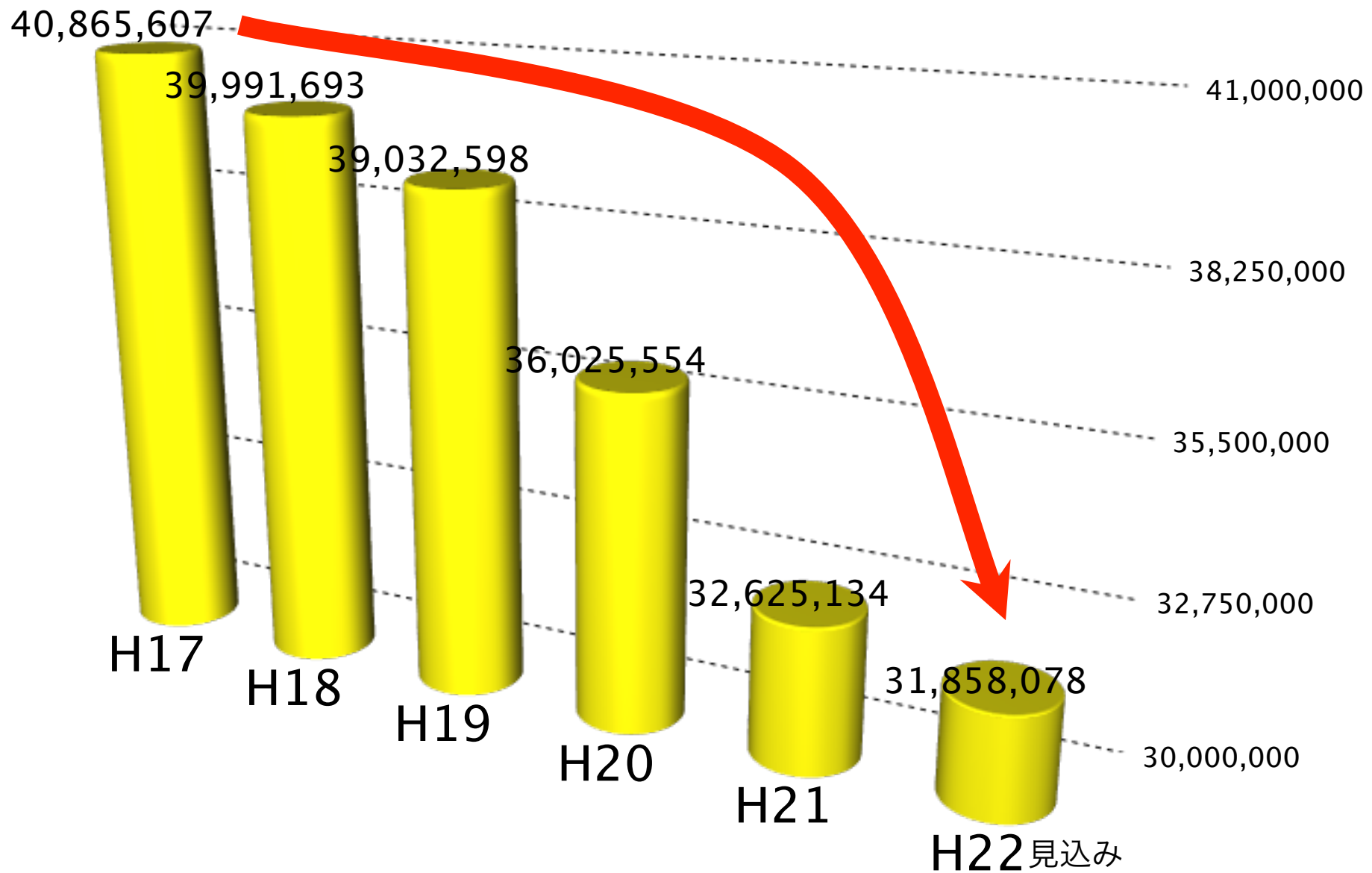


真に必要な事業に
集中投資

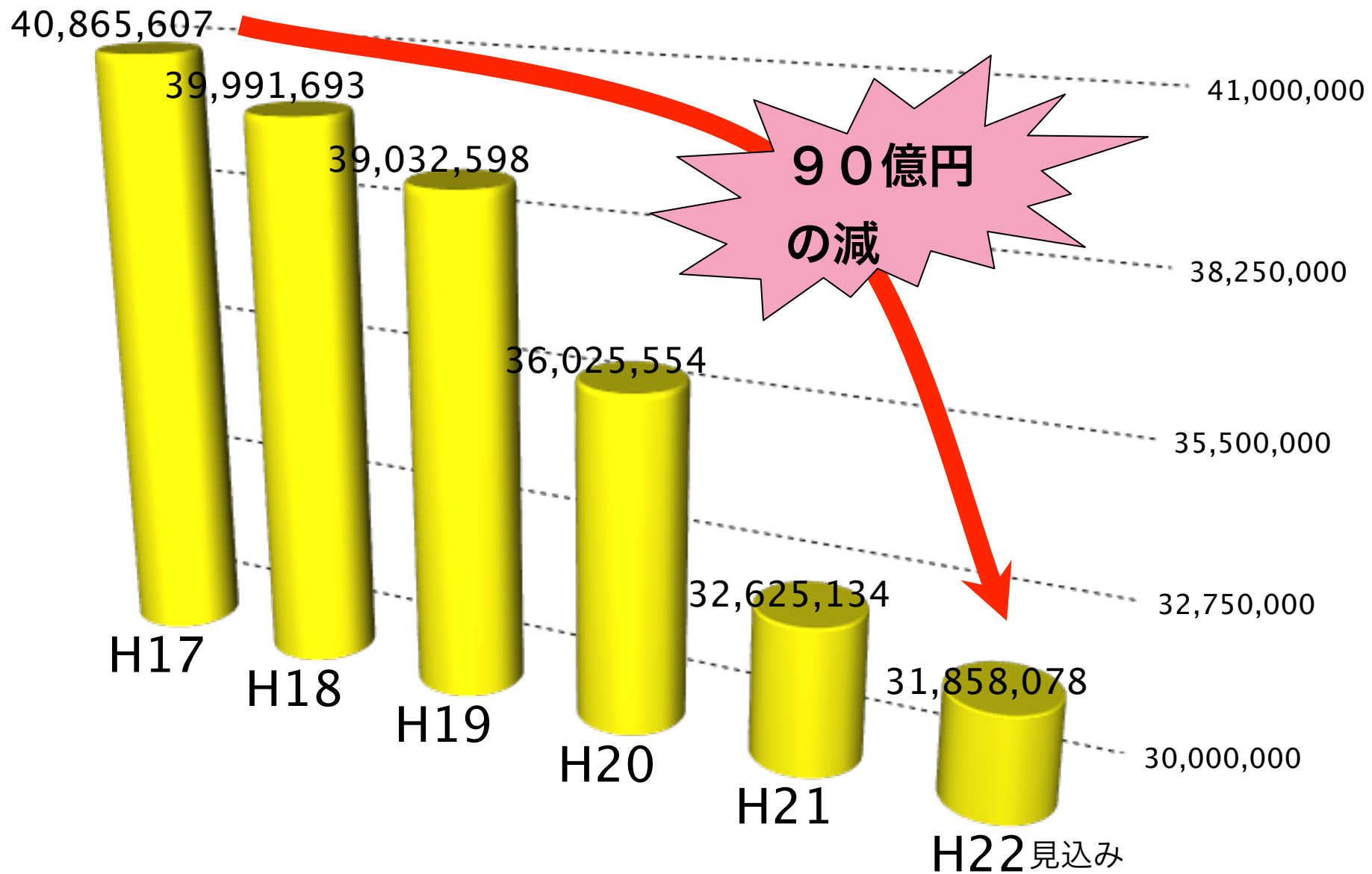
年度末起債残高の推移 (臨時財政対策債を除く)



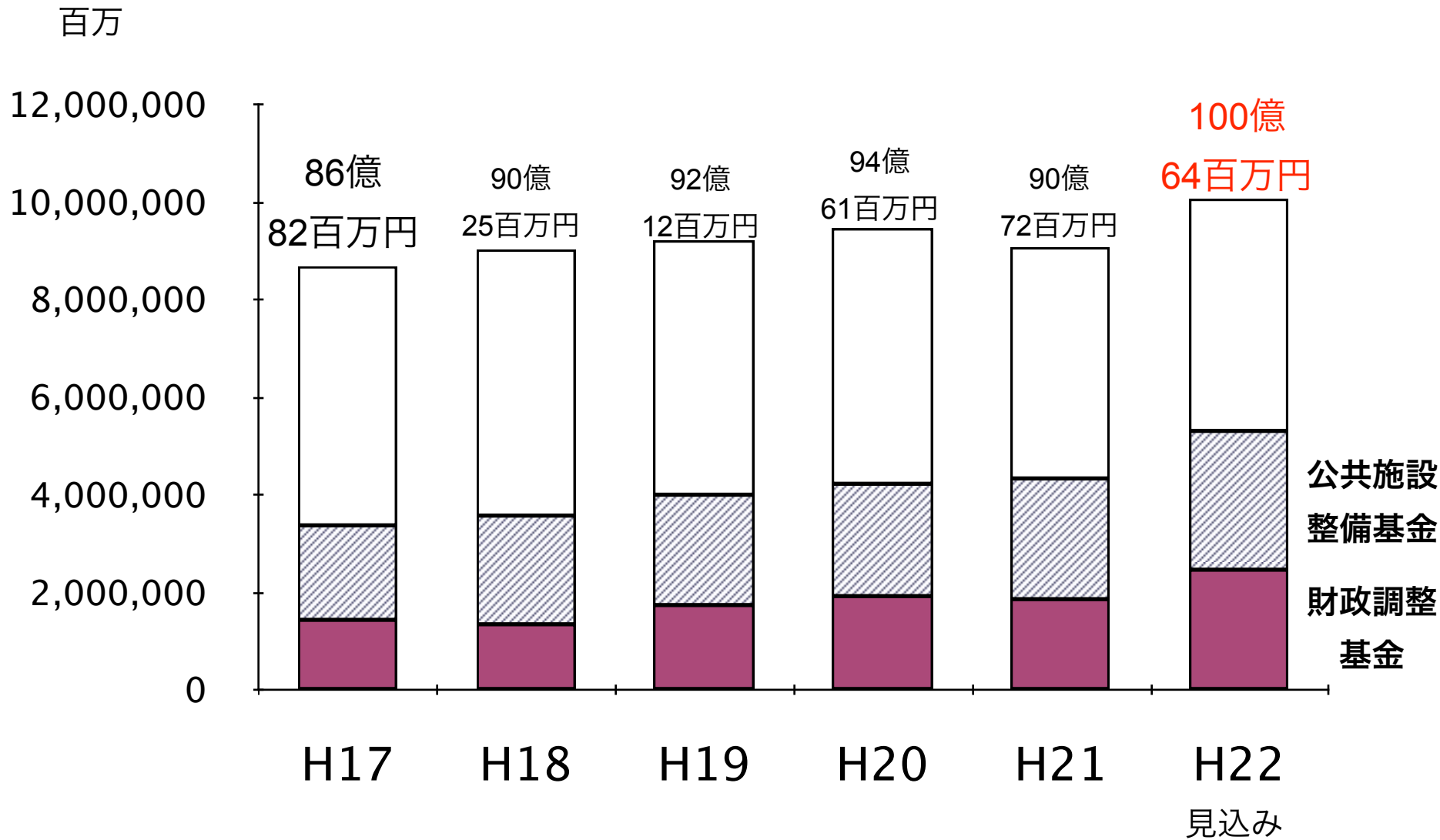
年度末起債残高の推移 (臨時財政対策債を除く)



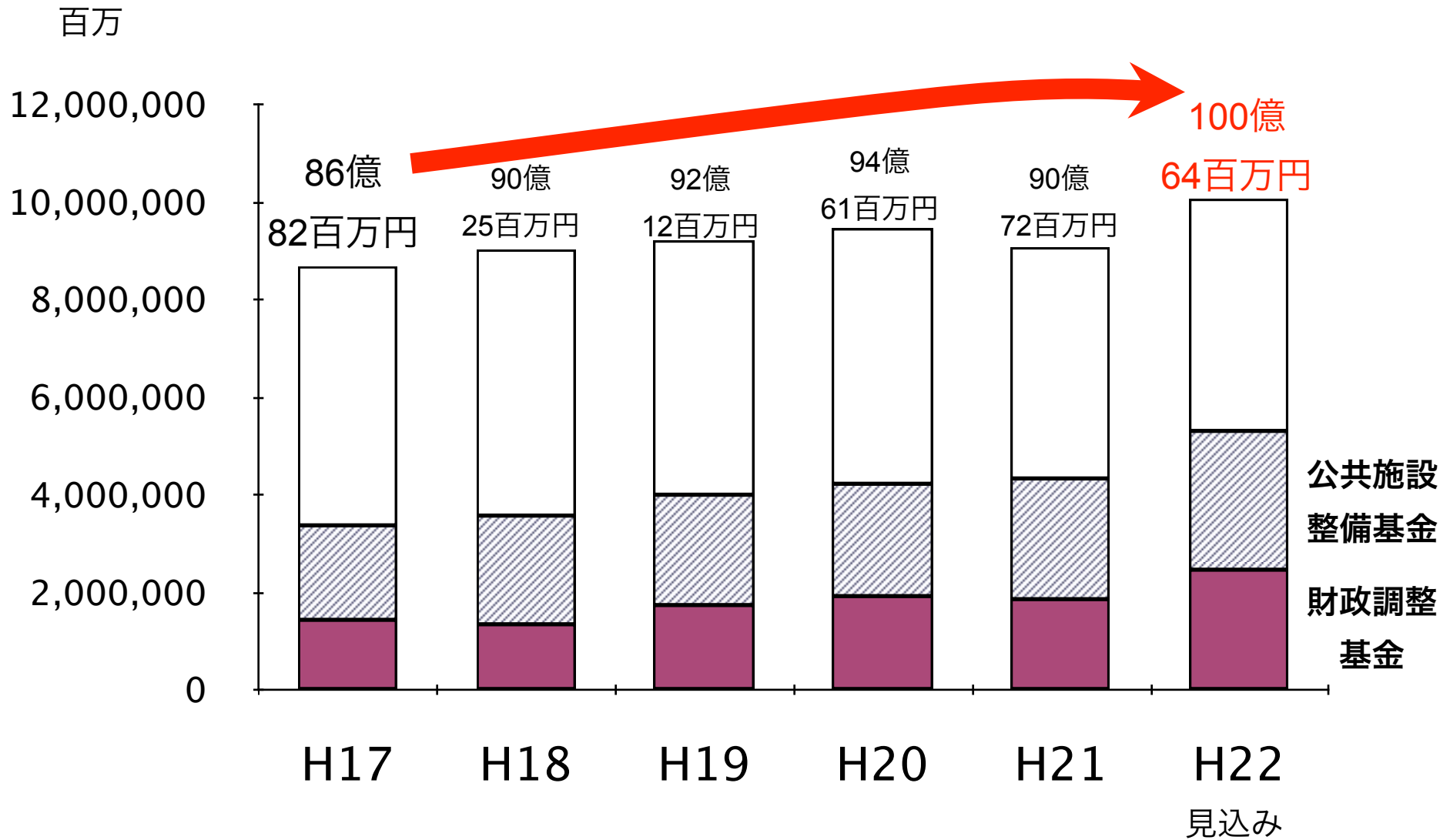
年度末起債残高の推移 (臨時財政対策債を除く)



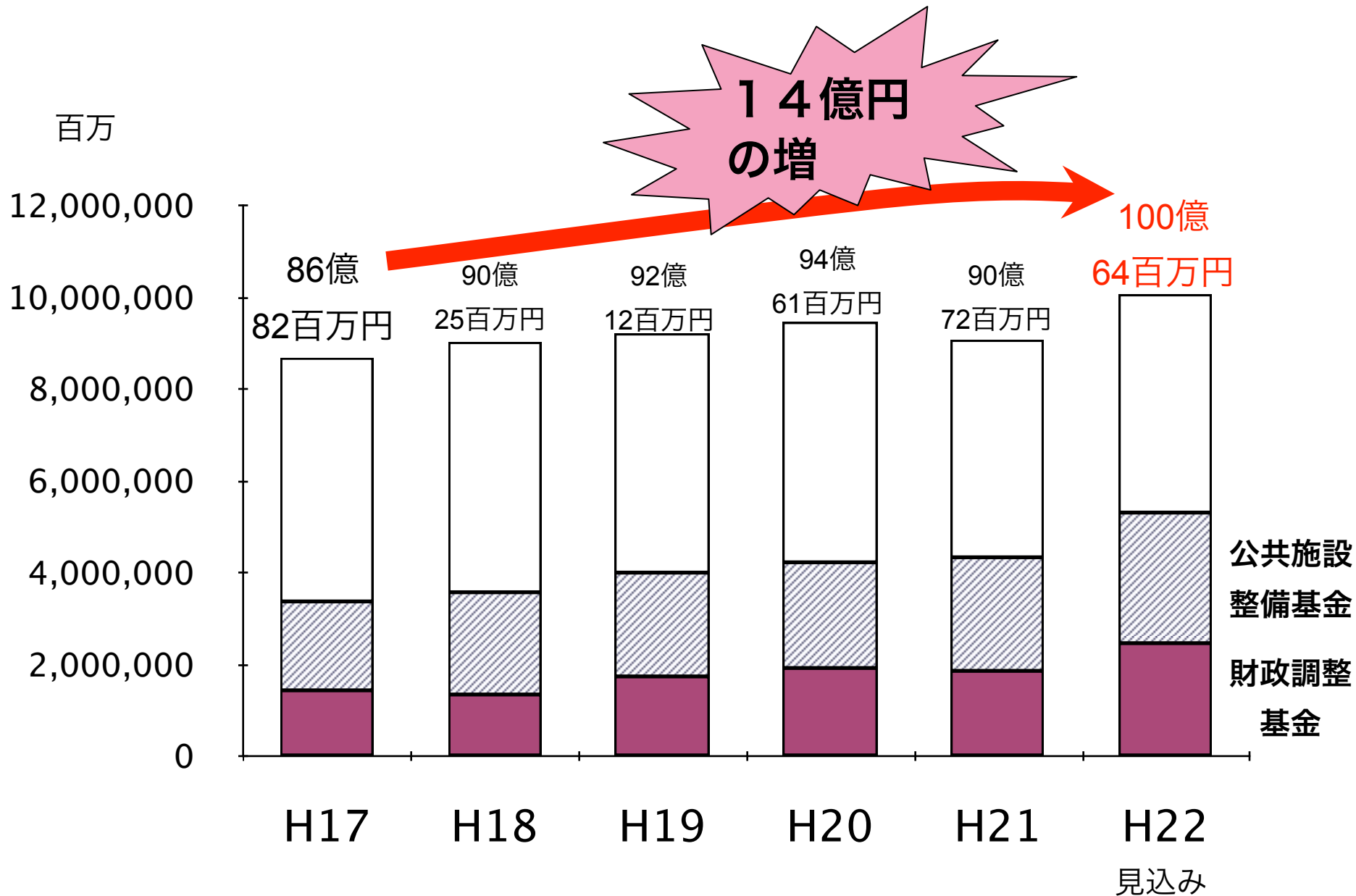
年度末基金残高の推移



年度末基金残高の推移



年度末基金残高の推移



県内20市町職員1118人減

削減率12% 行革目標上回る

05~10年



佐賀県内20市町の職員数は2005年から5年間で計1118人減り、行政改革目標「集中改革プラン」で掲げた削減目標を達成した。減員数は目標を231人上回り、達成率は126%。全職員数に

対する削減率は平均12・2%で目標値9・7%を2・5ポイント上回った。武雄市や基山町が目標の2倍以上を削減する一方、多久市と玄海町は目標を下回った。

市町村合併に伴う組織合理化や事務効率化のほか、新規採用数抑制や行政サービスの民間委託などに取り組んだ結果が反映したとみられる。集中改革プランは、200

5年4月1日時点の20市町職員数9169人を、5年間で887人(9・7%)減らし、8282人にする目標だった。10年4月1日の実績は8051人(12・2%減)となった。

市町別にみると、達成率の最高は基山町が250%。武雄市の218%、鳥栖市の155%が続き、18市町が目標を達成した。

県内20市町の職員削減目標と実績

市町名	削減目標	削減数	削減率 (%)	2005年職員数	2010年職員数
佐賀市	252	277	13.0	2,137	1,860
唐津市	181	215	12.7	1,691	1,476
鳥栖市	20	31	6.7	464	433
多久市	27	24	7.7	310	286
伊万里市	34	49	7.2	683	634
武雄市	85	186	31.3	595	409
鹿島市	20	20	7.3	275	255
小城市	43	47	9.7	486	439
小埴市	13	15	6.6	226	211
神埼市	39	39	13.1	298	259
吉野ヶ里町	11	14	8.7	161	147
基山町	4	10	6.6	152	142
上峰町	10	11	13.1	84	73
みやき町	45	60	20.3	295	235
玄海町	9	2	1.3	154	152
有田町	42	54	12.9	417	363
大町	20	22	13.3	165	143
江北町	13	13	12.4	105	92
白石町	13	20	6.1	327	307
太良町	6	9	6.3	144	135
合計	887	1,118	12.2	9,169	8,051

※職員数は各年の4月1日時点

未達成は玄海町(22%)と多久市(88%)。玄海町は臨時・嘱託保育士を任期付き職員に変更して職員数が増えたほか「権限移譲などで業務量が

い」、多久市は「一般職は予定より減ったが、市立病院の看護師が配置見直しで目標通

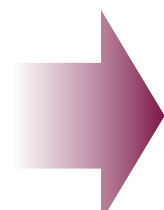
り減らせなかった」としている。削減率では武雄市の31・3%が最も高く595人から409人に減った。「市立病院の民間移譲が大きい」という。

次いでみやき町20・3%、大町町13・3%が高かった。低かったのは玄海町1・3%、白石町6・1%、太良町6・3%の順。

県によると、15市町は引き続き職員削減計画を作成か検討中という。県市町村課は「目標を上回る実績は各市町の行革努力と評価できる。職員減で1人あたりの業務量が増える中、どこまで減らせばいいのか、適正な定員数を模索している所もある」としている。

2011.02.13付け佐賀新聞

これらにより、市の財政状況は大幅に改善



23年度重点事業の概要

<新規事業>

がん検診無料クーポン事業

1252.7万円

受診率50%を目標に、40～60歳の節目（40歳から5歳毎）の市民を対象に無料検診を実施します。

- ・ 肺がん
- ・ 胃がん
- ・ 大腸がん
- ・ 前立腺がん（50歳以上）



ファミリーサポート助成事業

15.0万円

子育て支援センターで実施している、ファミリーサポート事業を多くの市民に利用してもらうことを目的に、利用料金の一部助成を行います。

対象者 生後2月～中学生（現行会員84名）
利用料金 現行 1時間以内 700円 ⇒ 500円
差額の200円は市が委託料として支払い
※ 協力会員 36名



武雄市

新規果樹導入実証事業

1173.7万円 県支出金1173.6万円

武雄市の新たな特産品を生み出すため、国内ではあまり流通していない熱帯果実の栽培を試験的に行います。



武雄温泉駅周辺整備計画 策定委託事業

1200万円 国庫支出金660万円

九州新幹線西九州ルートの開業に向け、
22年度策定の駅周辺整備構想を受けて
駅周辺の整備計画を策定します。



防災行政無線拡充事業

1億4981.6万円 地方債1億4230万円

平成21年度で取組んだ防災行政無線の難聴地区解消のため、防災行政無線の支局の増設を行います。



市営和田住宅建替事業

3億8984.9万円

国庫支出金1億6777.1万円、地方債2億950万円

老朽化した和田住宅を建替えることにより、
快適住宅環境を形成すると共に、
高齢化・少子化対策に取り組みます。

概要

総事業費	12億293万2千円
事業期間	平成22年度～25年度
建替戸数	78戸（5階建て2棟）



ICTを活用したまちづくり

- 武雄市ICT寺子屋事業（1533.5万円 県支出金1533.5万円）
市民のICTリテラシーの向上を推進するため、ICTに関する知識・技術の習得を支援するICT寺子屋を設置します。
- 武雄市学校ICT支援事業（2429.4万円 県支出金2429.4万円）
教員のICT活用力の向上を図るため、各小・中学校にICT支援員を配置します。
- 指導用デジタル教科書購入（450.4万円）
教師指導用として小学校国語デジタル教科書を購入し、電子黒板を活用して、生徒の関心や理解をさらに深めます。

23年度重点事業の概要

< 継続事業 >

小児夜間救急外来委託事業

2115.8万円（構成市町負担金564.2万円）

平成23年6月から小児夜間救急外来事業を拡充し、
市民の安心・安全を守ります。



企業誘致の推進

352.7万円

本年10月1日分譲開始予定の新工業団地への
企業誘致を積極的に進めます。



市道の維持・補修

1億3000万円

市道の機能を維持するため、
路面の補修や側溝の整備などを
積極的に進めます。



小・中学校施設整備事業

10億6050.6万円

国庫支出金1億9545万円、地方債8億4440万円

老朽化した小・中学校の改修を行い、
教育環境の改善に努めます。

- ・ 武雄小学校
- ・ 武雄中学校
- ・ 川登中学校



人事交流・研修による 職員の資質向上

1713.1万円 人材交流負担金等248.9万円

他自治体等との人事交流を拡充する
とともに、職員研修の充実を図ります。

- 自治体との人事交流（4名）
 - （新規）
 - ・長野県王滝村
 - ・新潟県三条市
 - （継続）
 - ・神奈川県横浜市
 - ・長崎県長崎市
- 民間企業の社員研修への参加 など



みんなのバス事業 (みんなの政策集)

1998.7万円 県支出金1928.6万円

住民の足のさらなる確保を図るため、
試験運行地域を拡大します。

お結び事業 (みんなの政策集)

455万円 県支出金320.1万円

縁結びや婚活支援に引き続き取り組んでいきます。

いのししパトロール事業 (みんなの政策集)

2512.5万円 県支出金2512.4万円

市内全域を定期的にパトロールして、被害状況や出没地点等を調査・確認し、いのしし被害対策を行います。

佐賀県緊急雇用対策事業

2億7126.1万円 県支出金2億7125万円

※うち新規事業

- ・ 武雄市ICT寺子屋事業 (再掲)
- ・ 男女共同参画市民意識調査
- ・ 武雄市新規果樹導入実証事業 (再掲)
- ・ 荒廃森林再生事業
- ・ 武雄市学校ICT支援事業 (再掲)